

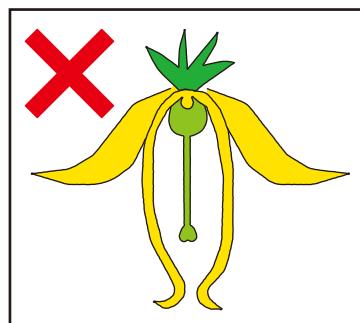
作物から花粉の放出を確認してください

マルハナバチは花粉が出ていなければ訪花活動を行いません。

●トマトの場合



花の下に黒色紙を置いて
花を軽くたたくと、花粉が落ちる
様子が確認できます。



【注意】授粉しにくいトマトの花
左：短花柱花 右：長花柱花

●ナスの場合



めしべが長い長花柱花が良い。



短花柱花

●イチゴの場合



花粉が出ていれば、おしべ付近が粉っぽく見えるか、
おしべに触れたときに指に花粉が付きます。

マルハナバチ商品を導入する前に確認いただくポイント

②逃亡防止用ネットの展張状態

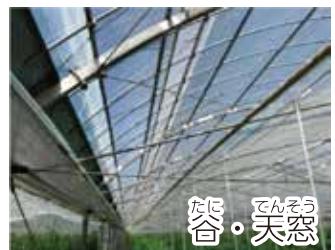


マルハナバチの野外への逃亡防止のため、施設開口部にハチ逃亡防止用ネット(**4mm目合以下**)を
必ず設置してください。

設置したネットに隙間や穴がないかを確認してください。

※ネットは目ぞれのしないものを選択してください。

ネット設置の例



雨よけハウスのネット設置例

裾がめくれないようにする

ネット設置の注意点



ネットやフィルムが折れ曲がり
ポケット状になっている所に
ハチが潜り込んでしまうことが
あるので、注意してください。

③被覆資材の留意点



マルハナバチは紫外線を利用して活動する昆虫です。

UVカットフィルムや寒冷紗など、紫外線を遮る環境下では、マルハナバチの活動が鈍くなる可能性がありますのでご注意ください。



UVカットフィルム展張施設で巣に戻れなくなり、
側窓付近で死亡するクロマルハナバチ

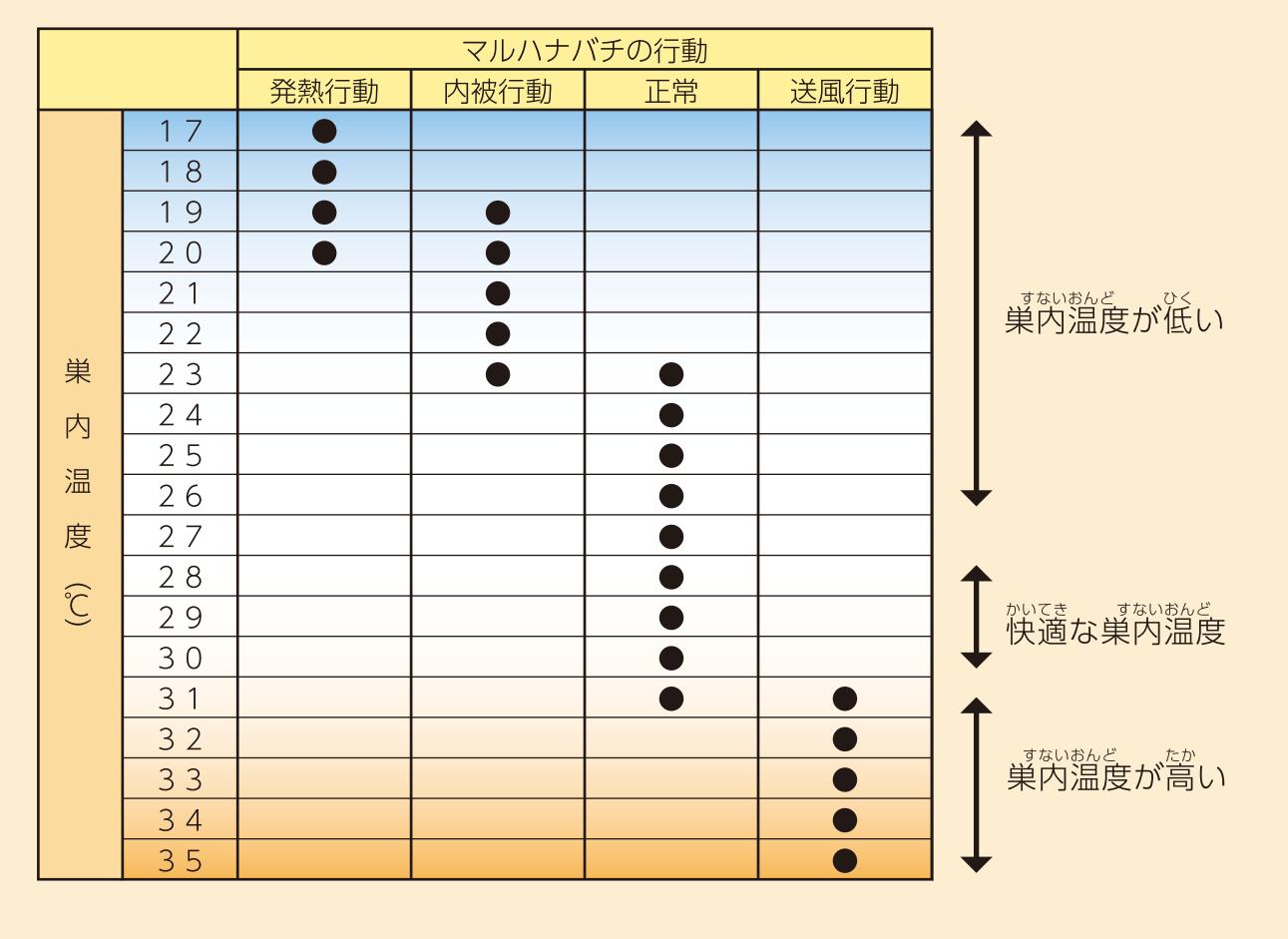
④施設内の温度とマルハナバチの行動

マルハナバチの活動が最適な施設内温度は17°C~28°Cです。

(以下は弊社試験データに基づく)

巣内温度の変動によるマルハナバチの行動の変化は図の通りです。

巣内の最も快適な温度は28°C~30°Cです。



これらのデータを元にして、「アグリセクトてきおんくん」および「はち頭巾」が開発されました。

巣内の温度が低い時

巣内に花粉で覆いを作成して保温を図り(内被作成行動)、筋肉(飛翔筋)を震わせて

発熱します(発熱行動)。

蜂出入り口から冷気が入る場合、花粉で膜を作るか、綿を詰めるなどして出入り口を塞ぐこともあります。

巣内の温度が高い時

送風行動を行うことで巣内部の温度を下げようとします。

巣箱の着地台に群がって行うこともあります。

高温が続くと卵・幼虫・蛹および成虫に影響を及ぼし、巣の溶解や熱死の原因となります。



送風行動するマルハナバチ



高温の影響で死滅したマルハナバチの巣

対策

巣箱の周辺は活動最適温度を維持できるよう対策を施してください。

巣箱には必ず日除けをし、直射日光が当たらないようにしてください。



巣箱の設置例



アグリセクトてきおん君(別売)を
用いた設置



はち頭巾(別売)を
用いた設置

猛暑期は風通しの良い場所(妻面や側窓付近など)に設置してください。

施設中央部などの風通しの悪い場所は避けてください。

マルハナバチ商品を導入する前に確認いただくポイント

⑤農薬の影響

「マルハナバチに対する農薬の残効期間もしくは影響の程度について」を確認してください(右記QRコードからご確認いただけます)。

残効期間が30日以上の農薬もありますので、マルハナバチ導入前の防除暦(育苗期含む)の確認も必要です。マルハナバチ利用中に農薬散布する時は、必ず前日までにマルハナバチを巣箱に回収し、施設外に移動させてから農薬散布するようにしてください。



⑥1箱あたりの使用面積

商品名	大玉トマト (施設)	ミニトマト (施設)	ナス (施設)	イチゴ (施設)	ホオズキ (施設)
アグリ・トップクロマルDX	約300坪	約250坪	100~200坪	約300坪	—
アグリ・トップクロマルNEXT	~300坪	~240坪	—	~300坪	~300坪
アグリ・トップマルハナ	約300坪	約250坪	100~200坪	約300坪	—

*栽培密度や栽植方法、品種、季節などによって使用面積も変わります。

*開花数、施設構造での相違もあります。

*「-」は測定なし。

マルハナバチ商品を導入する前に確認いただくポイント

⑦送粉昆虫の併用

アグリ・トップクロマル(クロマルハナバチ)と

アグリ・トップマルハナ(セイヨウオオマルハナバチ)は
同じ施設内で同時に飼養しないでください。



ミツバチとの併用は問題ない結果が出ていますが、ミツバチがマルハナバチの巣に攻撃を
しないように、以下の点をお守りください。

- ミツバチの巣箱内の餌(蜜など)をきらさないようにしてください。
- マルハナバチ巣箱とミツバチ巣箱はできるだけ離して設置してください。

⑧マルハナバチに刺された場合の対処法

1. 刺された場所から毒を絞り出します。

注意：口では絶対に吸引しない

2. 患部を流水でしっかり洗い流します。

3. 患部を氷や保冷剤を用いて冷やします。

腫れがひどい場合や体調に異変を感じたら(アナフィラキシーショック)、速やかに医師に
ご相談ください。

過去にショック症状が現れたことのない方も、30分以上の休憩をとって様子をみてください。
特にアレルギー体質の方はご注意ください。



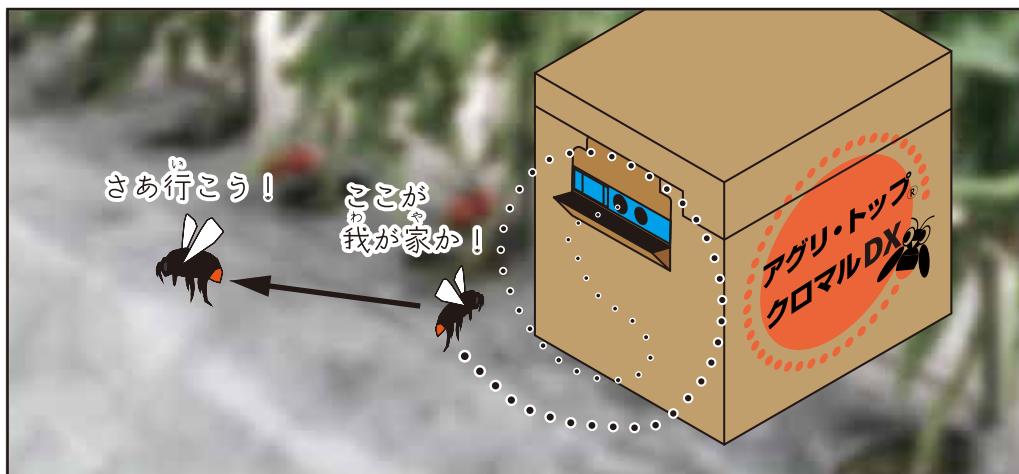
マルハナバチ商品を導入した後に確認いただくポイント

①学習飛行

マルハナバチに作物の花粉を記憶させることを**学習飛行**といいます。

施設内環境や天候によって異なりますが、3日間程度必要な場合もあります。

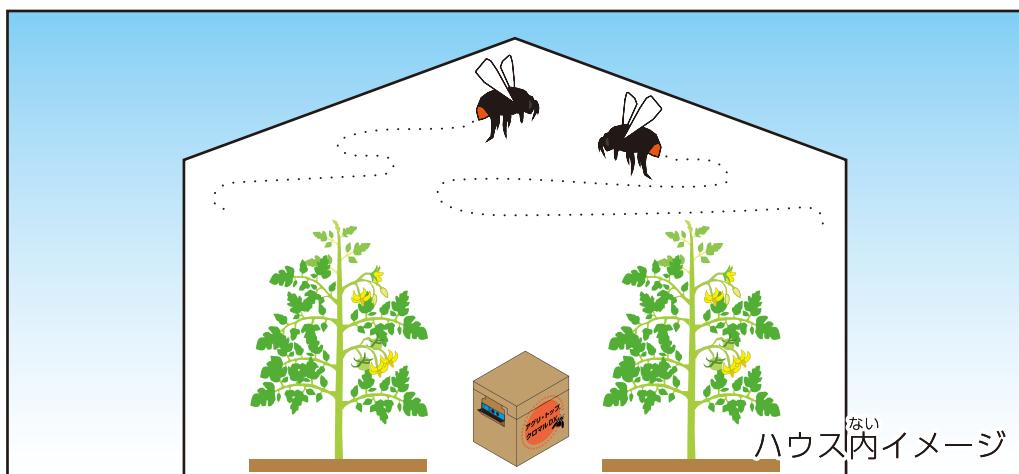
①飛び出し



蜂出入り口を開けると巣箱に入った光に反応し出巣します。

巣箱の位置を確認しながら、円を描く様に飛行を始めます(定位飛行)。

②空間認識



明るい方に向かって施設の大井付近を飛び回り、施設の空間を認識します。

*クロマルハナバチは比較的長い時間を要します。

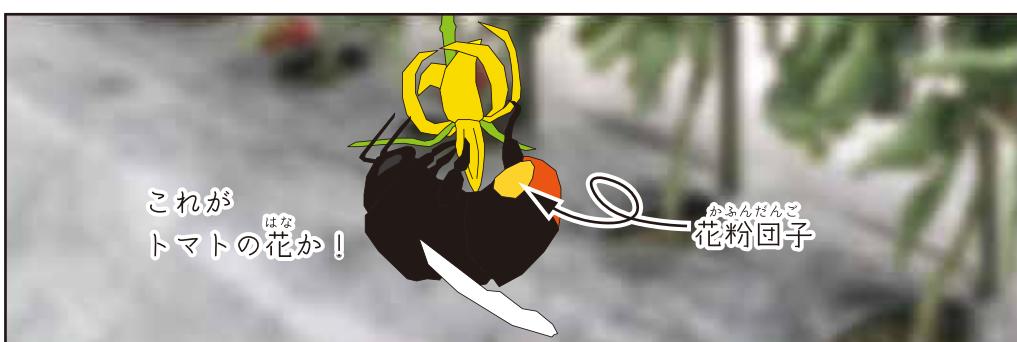
この時、開口部にネットが無い状態、もしくは隙間が開いていると、
ハチが逃亡してしまいます。

③作物の花を探索



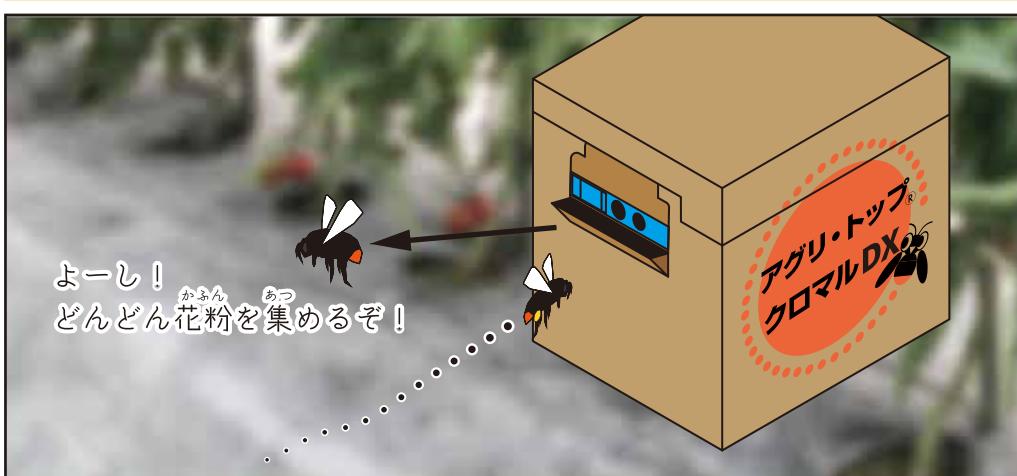
花の色、形、匂いを頼りに探索します。

④授粉開始



アゴで花を咬んで体を固定し、胸筋を高速で振動させて花から花粉を落として
脚に花粉団子を作ります。マルハナバチでよく見られる振動授粉と呼びます。

⑤学習完了



巣に花粉団子を持ち帰り学習飛行完了です。作物の花粉の匂いが巣内に広がることで、新たに誕生した働きバチの学習はスムーズになります。

マルハナバチ商品を導入した後に確認いただくポイント

かつどうじょうきょう ②活動状況



マルハナバチの活動は下記のこととで確認できます。

マルハナバチが訪花している。

※猛暑期は日中の活動が確認しにくい場合がありますので、涼しい時間帯(朝夕)に確認することをおすすめします。



巣箱に戻る働きバチが脚に花粉団子を付けている。

※トマト・ナスはクリーム色、イチゴは濃い黄色の花粉団子が確認できます。



花にバイトマーク*が付いている。

※バイトマークとは

マルハナバチが授粉する時に付く「咬み痕」をバイトマークと呼び、マルハナバチが訪花した目印となります。

